

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

| | | | |
|------|-------------------|----|-----|
| 所属 | 理工学部 | 身分 | 准教授 |
| 氏名 | 寺本剛 | | |
| NAME | Tsuyoshi Teramoto | | |

1. 研究課題

（和文） 長期的リスクの公正な分配に向けた世代間倫理の構築

（英文）

2. 研究期間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

科学技術の影響力が増大するなかで長期化するリスクは、未来世代に引き継がれることとなるが、これは倫理的に問題であり、世代間倫理に根ざしたリスク分配の在り方が今求められている。この現状に 대응するために本研究は①高レベル放射性廃棄物の処理・処分のあり方を世代間倫理の観点から考察し、②長期的リスクの分配に向けた世代間倫理の理論構築をおこなった。

①については、未来世代の負担を考慮して地層処分という処分方法を採用する国の考え方、暫定保管と総量管理を軸にした日本学術会議の考え方、発生者責任の原則に基づく原子力市民委員会の考え方を検討し、世代間倫理の観点から見てどのような処分のあり方あるいは負担のあり方が適切なかを検討した。なお、その成果は応用哲学会第8回年次研究大会で発表した。

次いで、①の考察を手がかりにして、②についての考察を行った。これまで世代間倫理の考察は主に公正という理念に基づいて考えられてきたが、すでに生じてしまった長期的なリスクについては公正という理念を十分な形で実現することは不可能である。そこで、長期的なリスクに対処するための世代間倫理を構想するために、世代間関係を動的なプロセスとみなし、そのあり方を最適化する世代間倫理のあり方を提案した。なお、その成果は、科研費基盤研究(C)「技術哲学の価値論的転回と実践的応用」平成28年度研究会において発表した。

（英文）